

御雇外国人教師関係書類マイクロフィルム版について

滝 沢 正 順

東京大学事務部にある御雇外国人教師関係書類のマイクロフィルムが総合図書館に所蔵されています。これまで所蔵されていることがあまり知られていないので、紹介してみたいと思います。

このマイクロフィルムは35ミリの8本が1セットで、現在ネガ・ポジが各1セットづつあります。8本ともユネスコ東アジア文化研究センターが1970年にマイクロ化したものの複製です。

小学館から1975年に出版された『資料・御雇外国人』（ユネスコ東アジア文化研究センター編）は、御雇外国人研究のための基本文献の1つですが、その編纂にあたり同センターでは、外務省、国立公文書館、東京大学事務部の御雇外国人関係書類のマイクロフィルム化をおこないました。そのうちの東京大学事務部のぶんが、このマイクロフィルムです。

このマイクロフィルムに収録されている文書類は、明治初期から昭和戦前期までの御雇外国人教師に関する東大の事務文書がほとんどですが、明治時代に文部省が作成した『雇（備）外国人表』8点は、その時点での文部省管轄下の高等教育機関の雇（と嘱託）外国人教師の全体像のわかる資料です。

『資料・御雇外国人』にはもちろんこれらの文書の内容が収載されていますが、同書が対象としたのは明治元年から明治22年までなので、ふくまれない文書も多数あります。

文書の種類は、外国人教師の雇用や契約、叙勲に関する書類、履歴などのほか、教育・

研究や生活にともなうさまざまな事項に関する文書がふくまれています。東大内で作成されたりかわされた文書だけでなく、文部省やヨーロッパの日本大使館にあてた文書、外国人自身やその近親からの来信などもあります。

文書のある外国人教師には、東大が明治以降の日本でしめた位置を反映して、それぞれの分野での重要な人物が多くふくまれています。そのなかには理学部のモース、医学部のベルツ、工学部のコンドル、ミルン、文学部のケーベル、法学部のボアソナードなど、一般的にも名前のよく知られた外国人もいます。

マイクロフィルムは、書類綴りごとにおおむね古い方から収録されています。書類綴りはだいたい年月日順や人物ごとに文書がまとめられていますが、1本目にはいつている「備外国人教師講師名簿」だけは、明治2年から昭和2年までの東大の外国人教師の履歴集です。なおこの名簿の原本を筆写したと思われるものが総合図書館参考室にあって、これまで多くの研究者に利用されています。

書類綴りの多くは冒頭に目次がついていて検索に便利ですが、一部記載もれもあるようで目次の過信はできません。

この8本のマイクロフィルムに収録されている文書は、いずれも御雇外国人教師に関する貴重な一次資料であるのはいうまでもありません。広く利用される価値があるものと信じています。

（たきざわ まさのり・工学部機械系

三学科図書室）